

浅間山 2009年2月の噴火活動について

Eruptive activity at Asamayama in February 2009

気象庁地震火山部火山課 宮村 淳一 [1]

Miyamura Jun'ichi Volcanological Division, Seismological and Volcanological Department, Japan Meteorological Agency[1]

[1] -

[1] -

浅間山では2009年2月2日未明に噴火が発生した。この噴火により弾道を描いて飛散する大きな噴石が山頂火口から北西側に約1 km離れたところまで達した。噴煙は火口縁上約2000 mの高さまで上昇したあと南東方向に流れ、火山灰が関東南部まで達した。大きな噴石を飛散させる噴火は、2004年11月14日以来である。

噴火開始(01時51分)と同時に、地震計により微動が観測されており、02時00分から02時10分にかけて振幅が増大した。また、山頂火口の南約8km地点で最大振幅約7 Paの空振が観測された。空振波形はパルス状ではなく、振幅が徐々に増大する連続的な波形であった。

噴火発生の約24時間前から、山頂火口の北北東約2.5km地点の傾斜計で西上がりの傾斜変動が観測された。この傾斜変動から5時間程度遅れて、BH型地震(周波数の高いB型地震)が多発した。これらの現象は、2004年9月~12月に続いた一連の噴火活動のうち、中噴火(噴石が2kmを超えるもの)発生前にも同様に観測されていた。2004年の噴火事例を踏まえ、気象庁では、火口周辺警報(噴火警戒レベル3)を噴火発生の約13時間前に発表して周辺住民に警戒を呼びかけた。さらに、噴火発生直後の02時40分には降灰域を図示した降灰予報を発表し、降灰が見込まれる地域に注意を呼びかけた。この噴火に伴う降灰は浅間山から約200km離れた関東地方南部でも観測された。

浅間山では、この噴火の約6ヶ月前の2008年8月10日にもごく小規模な噴火が発生しており、火山活動はやや活発な状況であった。

本講演では、2009年2月の噴火活動の概要について、2008年以降の火山活動経過も含め、震動観測、地殻変動観測、遠望観測及び現地調査等の結果に基づき報告する。